

アフガニスタン・イスラム共和国		首都	カブール
 <p>黒は外国に支配されていた暗い過去、赤は闘いで流された血、緑は独立・平和・イスラム教を表している。</p> <p>独立：1919/6/19 英国より          国連加盟：1946/11/19          政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 65万 2,225 km <sup>2</sup> (日本の 1.7 倍) 6カ国に囲まれた内陸国で、南部は砂漠、東部、中部、北部はヒンズークシュ山脈に連なる山岳地帯となっている。国内を流れるいくつかの川はいずれも砂漠のなかに消える内陸川で、東流するカブール川だけがインダス川に合流して海に注ぐ。
		人口	2,209 万人(2006 年)
		言語	パシュトゥ語 (公用語)、ダリ語 (公用語)
		通貨	アフガニー
		気候	国土の大部分は乾燥した大陸性高原気候で、年間を通じて日本 10 分の 1 程度の雨量、春秋に南部と中央部に 1 年で一番多く降り、北部は南部と中央部よりは少ない。寒暑の差が大きく夏は 40℃以上、冬は -15℃以下まで下がることもある。6~9 月は強風が吹きつけ、俗に「風の 120 日」とよばれるほどである。北部山岳地帯は冷帯に属している。
		民族	パシュトゥン人 44%、タジク人 25%、ウズベク人 8%、ハザラ人 10%
		宗教	イスラム教スンニ派 84%、イスラム教シーア派 15%
教育制度の概要	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年に及んだ内戦によって、学校施設ばかりでなく、教育施設そのものが破壊されてしまい、屋根のない教室又はテントで、強い日差しに照り付けられながら、地面にすわって授業を受ける子どもたちが多い。</li> <li>・1日 3~4 交代で授業を行っている学校がたくさんある。</li> </ul>	
	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の学習では、格助詞の使い方ができないことがある。</li> </ul>	

生活習慣等	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事のときは、居間兼ダイニングである絨毯を敷かれた部屋にビニールの食卓布を敷き、その上に料理をおいて、囲んで手とスプーン・フォークで食べる。</li> <li>・ 朝食はナン（ジャムやクリーム）と紅茶もしくはミルク、または緑茶、ゆで卵等、昼食は、肉（ラム・鶏）、バターライス、ナン、野菜サラダ等、夕食は魚の唐揚げ、肉の煮込み、ナン等を食べる。</li> <li>・ ナンはインドと違って、どっしりと重くて歯ごたえがある。料理は、肉じゃがのようなコールマ、羊肉や牛肉を香辛料につけておき長い鉄串にさして焼いたカバブ、長粒米のピラフであるパラウがある。</li> </ul>
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性が伝統的に着用しているのが、頭からつま先まですっぽりと覆ってしまうブルカで、目の部分が網目になっているので、中から外が見えるが、外から女性の顔は見えないようになっている。タリバン政権下では、女性はブルカを着ることを義務付けられていたが、今でも以前の名残で着ている女性たちがいる。</li> <li>・ 現在は、スカーフだけのところ、髪の毛と首を隠せばいいというところ、目以外は全部隠すところなどさまざまである。</li> <li>・ 日干しレンガの住まいが一般的である。鉄筋コンクリートの建物が比較的多い首都カブールでも、一般住民住まいの多くは屋根は木造で、レンガを積み、壁を泥で固めたようなものもある。</li> </ul>

<参考資料>

- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・ 日本語教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子